

2023年度 独創的研究助成費 実績報告書

2024年 3月 27日

報告者	学科名 建築学科	職名 准教授	氏名 穂苅耕介	
研究課題	空き家を起点とした「場」の形成とコミュニティの再編による生活景の動的生成プロセスに関する研究			
研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担
	代表 分担者	穂苅耕介 建築学科・准教授	都市計画	
研究実績の概要	<p><b>【研究目的】</b>本研究では、前年度の研究対象地である福山市鞆町の大きな空き家＝旧中村薬局建物の活用を起点として形成されたガス事業者、デザイナー（移動者）らによる空き家再生活動を対象とし、空き家とその建物が面する旧商店街通りの漸進的な利活用による生活景の生成プロセスを、活動推移の動的な把握と可視化から分析を行い、「場」の形成とコミュニティ再編による生活景の生成システムの要件について検討を行った。</p> <p><b>【研究方法】</b>旧商店街通りの利活用を促すため、鞆町で昭和時代まで涼み台として道端に置いて使われていたが現在は物置などに仕舞われているという約900×1800mmの縁台（呼称「えんだら」）を地域住民への聞き取り調査から掘りおこし、空き家再生活動拠点・旧中村薬局を運営者らで「えんだら」を使い、旧商店街通りの賑わい創出に資する社会実験イベントを企画。そしてこれの実施に至るプロセスを、アクションリサーチによる詳細な把握により明らかにした。</p> <p><b>【研究結果】</b>「えんだら」の再価値化により昭和時代の風景の見直しを試み、旧商店街通りに賑わいを創出した（右写真）。また、この賑わい創出プロセスの詳細な把握から、旧商店街通りの利活用に寄与する主体（設置主体）と沿道の商店、個人住宅、空き地等の設置スペースの供与主体との関係を把握した（下部図表）。ここから旧中村薬局を起点に形成された開かれ</p>			
	  <p>「えんだら」（左写真）による賑わい創出の社会実験を企画</p>  <p>写真 社会実験前の旧商店街（2023.5.9 筆者撮影）</p>  <p>写真 社会実験中の旧商店街（24.2.17 原田祐一郎撮影）</p>			

